

日本文化人類学会公開シンポジウム

「原子カマシーンとちっちゃいこえー文化人類学者と詩人の対話」

日時：2022年12月4日（日）13時-18時（予定）

会場：JMS アステールプラザ中ホール

広島県広島市中区加古町4-17

対面のみでの開催 一般公開 参加費無料 事前予約不要

趣旨:

日本文化人類学会では、広く人類学的な考え方を知ってもらうため、毎年、公開シンポジウムを開催しています。今回は、広島で原爆の問題を中心に考えます。被爆したのは人間だけではないし、広島と長崎だけでもありません。原爆をグローバルな「原子カマシーン」のなかで捉え直しながら、そこから漏れ出す人間や動物や植物たちの「ちっちゃいこえ」を聴きとり、それを表現することの意味について、詩人のアーサー・ビナード氏をゲストに迎え、詩的想像力と人類学的想像力の対話を通して探っていきます。

プログラム

第1部

13:00-13:05 挨拶 日本文化人類学会理事（伊藤 泰信）

13:05-13:30 研究報告

内山田 康「フランスは偉大でポリネシアはちっぽけ」

13:30-14:00 絵本朗読

写真絵本『さがしています』より

作：アーサー・ビナード 写真：岡倉 禎志 曲：高嶋 圭子

朗読：アーサー・ビナード ピアノ：樋口 佳祐

「おはようございます」 ヴァイオリン：高旗 健次

「焼けこげた鉄瓶」 チェロ：阿曾沼 裕司

「いらっしゃいませ」 ヴィオラ：重森 玄貴

絵本『ドームがたり』

作：アーサー・ビナード 画：スズキコージ 曲：坪北 紗綾香
朗読：アーサー・ビナード
チェロ：阿曾沼 裕司 マリンバ：西村 安世 ピアノ：樋口 佳祐

14:00-15:00 対談
詩人アーサー・ビナードに聞く 聞き手：松嶋 健

15:00-15:10 休憩

第2部

15:10-16:15 研究報告
中村 沙絵「からだのちっちゃいこえを聴いてきた水俣の臨床から」
吉田 真理子「海を耕す：瀬戸内海の再生、複数種の時間」
箭内 匡「植物人類学」とピカをめぐる経験」

16:15-16:35 被爆樹木楽器によるミニコンサート
曲：S. ラフマニノフ 三重奏曲第1番ト短調「悲しみの三重奏曲」(1892)
ヴァイオリン：高旗 健次 チェロ：阿曾沼 裕司 ピアノ：樋口 佳祐

16:35-16:45 休憩

第3部

16:45-17:10 紙芝居
『ちっちゃいこえ』
作：アーサー・ビナード 絵：丸木 俊／丸木 位里『原爆の図』より
曲：中村 暢之
紙芝居：アーサー・ビナード ヴァイオリン：高旗 健次 ピアノ：樋口 佳祐

17:15-18 時頃 ディスカッション（登壇者全員）

エンディング 挨拶 広島大学平和センター長（川野 徳幸）

総合司会 中空 萌

主催 日本文化人類学会

共催 広島大学平和センター、広島文化人類学プロジェクト研究センター (TAIHI)

問合せ先：中四国人類学談話会事務局

E-mail: chushikoku604@gmail.com

本シンポジウムは、JSPS 科研費 JP22HP0005 の助成を受けたものです。